

中村学園短大 ○横田 春子  
才田真喜代  
板垣 茂代  
中村 倫子

1. 和服地は丈、幅共に従来のままであるが、日本人の体位は向上し、裾の不足、それに使用中収縮で裾、身丈が過不足するという現象が出て来る。又、つい丈で着物を着る場合に着丈をどのようにして決めるかということがある。今回は市販の浴衣地について総丈、幅、 $g/625\text{ cm}^2$ 、糸密度、厚さ及び価格を調査し、水浸、洗たくによる収縮率等を調べ、構成の際の参考資料とする為検討を加えた。

2. 試料は綿 100% 表示の 500 円～2500 円の浴衣地 19 種及び晒、新モスについて、長さ、幅、 $g/625\text{ cm}^2$ 、糸密度、厚さを測定した。収縮の方法は JIS による織物の収縮率試験方法のうち、常温水浸せき法、浸透浸せき法に一般的に家庭で行なわれる洗たく機による水洗いと常温水 ( $25\pm 2^\circ\text{C}$ ) 及び  $40^\circ\text{C}$  の水による洗たくを低温ワッシャ法に準じて加えた。但し洗たく機はナショナル洗たく機「うずしお」、洗剤は弱アルカリ合成洗剤、浴比 1:30 とした。

3. 収縮率は常温水浸せき法で平均たて 1.6% よこ 0.4%、浸透浸せき法で平均たて 2.7% よこ 0.4% であった。洗たく機操作を加えた収縮試験ではたて 2%～8%、よこ 3%～4% の収縮率があり、実寸では着丈 130 cm として平均 7.5 cm 縮み、幅 30 cm として 1 cm

前後の増減が見られるので、仕立ての際、もしくは洗たく後それを考慮出来る仕立てにする必要がある。収縮は布の糸密度、単位面積当りの重量、厚さ及び価格とはあまり著しい関係はみられない。